

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H00903

研究課題名(和文)生態学的現象学による個別事例学の哲学的基礎付けとアーカイブの構築

研究課題名(英文)Philosophical Foundations and Archival Construction of Case Studies through Ecological Phenomenology

研究代表者

河野 哲也 (Kono, Tetsuya)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：60384715

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、生態学的現象学の立場から、人間が自分を取り巻く個別の問題に解決を与えたときには「問題解決に望ましいアフォーダンスが配置され、望ましくないアフォーダンスが排除されるように物や出来事が配置設計された環境」の創造や再設計がなされていることを明らかにした。個々の当事者がそのような環境を創造・再設計していく過程を収集・分類、分析し、利用者が自分の問題解決を行うための資源にできる「事例ライブラリ」をウェブ上に構築して、一般に利用可能にすることが、多くの当事者にとってのケース・ベースド・ラーニングの基礎になることを示唆できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、各人が、対話と思考、身体動作、アート、発達、ソーシャルワーク、技術・技能の各分野で基礎論的・方法論的研究を行うとともに、事例アーカイブを作成するための映像アプリケーションを開発し、具体的な使用法や分析方法に関して、開発業者と調整しながらアプリケーションの基礎部分を構築した。これにより、事例を個別のまま科学的な客観性を保ちながら記述し分析する、新しい学問の方法論を提示した。成果は国内外の多数の学会で公表し、2022年度に国際学会(ICPIC)を代表者が主催した。さらに、分担者による単著を一連のシリーズ「知の生態学の冒険 J・J・ギブソンの継承」(東京大学出版会)として発表できた。

研究成果の概要(英文)：From the standpoint of ecological phenomenology, this study clarified that when humans provide solutions to individual problems surrounding them, they are creating or redesigning an environment in which objects and events are arranged and designed so that desirable affordances are placed for problem solving and undesirable affordances are eliminated. We suggest that the construction of a "case library" on the Web that collects, categorizes, and analyzes the process of creating and redesigning such environments by individual participants and makes it available to the public as a resource for users to solve their own problems would be the basis for case-based learning for many participants.

研究分野：哲学

キーワード：個別事例学 生態学的現象学 促進行為場 アフォーダンス 事例アーカイブ J.J.ギブソン 事例分析アプリケーション

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

本グループは、科研費基盤研究(B)「生態学的なコミュニケーション論と社会的アフォーダンスに関する実証哲学的研究(2009~2011年度)」及び「生態学的現象学の技術哲学的展開(2009~2012年度)」さらに、基盤研究(A)「知のエコロジカル・ターン(2012~2016年度)」を通じて、生態学的現象学の確立を目指してきた。以上の共同研究で明らかになったのは、人間が自分を取り巻く個別の問題に解決を与えたときには「問題解決に望ましいアフォーダンスが配置され、望ましくないアフォーダンスが排除されるように物や出来事が配置設計された環境」の創造や再設計がなされていることであり、個々の当事者がそのような環境を創造・再設計していく過程を生態学的現象学の観点から収集・分類、分析し、利用者が自分の問題解決を行うための資源にできる「事例ライブラリ」をウェブ上に構築して、一般に利用可能にすることが必要ということである。

これまで事例研究は、法則学的研究と違って一つの事例を記述するのみであり、他の事例への応用が効かず、それゆえ学問たり得ないと誤って理解されてきた。しかし実際には、法則学的研究は設定条件が実験室などの中で線形化されており、複雑系である現実の環境、とくに人間や社会、生態系を扱う分野では実践性ももちえなかった。それに対して事例は、適切な観点から適切に記述することで、他の事例に相対している人にとっての学びの優れたマテリアルとなる。

本研究では、生態学的アプローチに則って環境と身体的主体との関係性に注目し、当事者が自分を取り囲む環境に働きかけ、そこにアフォーダンスを作り出して利用することによって、自分の問題を創造的に解決していく過程を記述する。さらにそれをさまざまなメディアで記録、分類、分析した上で、事例ライブラリをウェブ、クラウド上に構築して一般の人に開示する。アクセスした人は自分の課題と類似の課題をウェブ上で見だし、その問題解決過程を知って活用することで、ケース・ベースド・ラーニング、あるいは、エピソード・ベースド・ラーニングが行えることになる。これは新しい研究成果の公開方法であり、新しいインタラクティブなライブラリ概念をも提示している(中村編『学校経営と学校図書館』2015、及び、平成30年計画5頁参照)。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、生態学的現象学の立場に立って促進行為場を創造し、再設計する過程を分析、収集・分類することと、問題解決のための事例ライブラリをウェブ上に構築し、一般の人々が利用可能なように公開することにある。「促進行為場」とは生態心理学の用語で、環境と自己との関係を問題解決のために適正化することで行為と学習が促進される場のことであり、人間が自分を取り巻く個別の問題を解決するときには、環境と自己との間に促進行為場(field of promoted action)の創造や再設計がなされていることをふまえる必要がある。本研究では、事例ライブラリを構築することで、従来の法則学的な科学では扱えなかった個別事例研究に哲学的基礎を与えて、当事者性の視点に立った個別事例学を確立する。

### 3. 研究の方法

エコロジカル・アプローチの基本理論や概念についてはすでにこれまでの共同研究によって分担者間で共有されているが、本研究では、新たに、生態学的現象学の方法論を事例研究と接続して「個別事例学」を確立するために連携研究者や研究協力者たちも含めて例会を開催した。

また、本研究は、研究成果を多様なメディア(映像、音声、文字など)を使って記録・記述し、クラウド上で事例ライブラリを構築することで、個別事例研究に哲学的基礎を与えることを目的としており、事例ライブラリの作成を通じて、研究を進めることとした。「事例ライブラリ」とは、法則学的で三人称であった従来の客観科学に対する批判から生まれたものであり、課題に直面する当事者が、個別の事例やエピソードをもとに自己学習するための媒介知である。ライブラリには、環境と自己との関係性をデザインし直し、課題を創造的に解決するあるいは何かを作り出す、一連の過程を記録した事例を収納した。

このライブラリにアクセスすることで利用者はケース(エピソード)・ベースド・ラーニングが行える。ライブラリは多様なメディア(映像、音声、文字など)により記録され、クラウド上に構築される。だがそれは単なる記録の集積ではなく、事例の提供者と利用者がインタラクションし、自らの事例を他の事例との関連で位置づけられる双方向的な媒体となる。

加えて、生態学的現象学における環境と自己の設計の観点を個別事例研究と結びつける理論的研究を出版し、事例ライブラリの理論的支柱とした。

以上の共通研究の計画に則りながら、発達、対話と思考、アート、身体動作、ソーシャルワークの各分野は、相互に連携をとりながら、それぞれの分野で、連携研究者や研究協力者の協力を得ながら専門的な研究を進めた。各分野は、必要な研究者を招聘して情報交換を行い、国内外の専門学会や専門誌で研究発表を行った。同時に、事例ライブラリの全体構想に貢献し、それぞれの分野の特徴をふまえて、ライブラリの構築に向けて準備を行う。年度末に例会を開き、今年度の成果をそれぞれ報告検討した。

#### 4. 研究成果

初年度(2017年度)は、基礎理論と方法論の確立として、各人が「対話と思考」「身体動作」「アート」「発達」「ソーシャルワーク」「技術・技能」の各分野でそれぞれに研究を行うとともに、個別事例をどう記述し、どのようにして科学的な研究対象にするかに関して、理論的考察を共同で行い、多数の国際学会での発表やシンポジウムの主催などをつうじて議論を深めた。また、事例ライブラリを作成するための映像アプリケーションを開発し、その具体的な使用法や分析方法に関して、例会を通じて、ソフト開発業者と調整しながら、アプリケーションの基礎部分を構築し、事例を個別のまま科学的な客観性を保ちながら記述し分析する新しい学問の方法論について議論した。さらに、分担者による単著を一連のシリーズとして発表する計画を出版社と協議した。

2018年度は、個別事例学を科学として成立させるための基礎理論と方法論に関わる成果を、多数の哲学・心理学などの国際学会、シンポジウムなどで研究成果を公表した。また事例アーカイブのための基本アプリケーションが完成したため、研究者間で使用方法を共有した。それに基づき、各分野に必要な基本アプリの調整を行い、そのアプリケーションを使った事例分析を試験的に導入し、個別事例学の理論とその実用例についてシンポジウムを行い、アプリケーションの具体的な使用例を提示した。加えて、東京大学出版会に生態学的現象学の単著シリーズ「知のエコロジカル・ターン」を提案して、受諾され、執筆陣とスケジュール、それぞれのタイトルと概要、目次が決定した。

2019年度は、個別事例学の基礎理論と方法論の研究成果を引き続き多数の学会で発表しつつ、A・チェメロ氏(シンシナティ大学)、J-M・ロウ氏(リヨン高等師範学校)など、海外の研究者との交流を進め、事例研究の基盤としての身体性認知などへの展開を試みた。事例アーカイブについては、日本心理学会で「アフォーダンスによる個別事例の研究：映像分析による事例の汎用性」と題した公募シンポジウムを企画するとともに、スポーツや当事者研究、哲学対話などでの利用を開始し、アーカイブの構築を始めつつ、アプリの改良について議論した。さらに、研究の最大の成果として、河野らが編者となり、東京大学出版会より現象学と生態心理学を基礎とした単著シリーズ全10巻の執筆出版を進めた。

2020年度は、コロナ禍により、それぞれの事例収集や実践に大幅な支障がでたため、複数の研究で当初の予定を変更し、オンラインにおける研究を行った。哲学対話においては、オンラインで子どもの哲学を実施し、参加者同士の役割をビデオで分析する作業を行ない、対話のデジタル人文学の構築を目指した。また、社会に関するオンラインでの研究を行うための準備として社会運動やカウンターカルチャーに関する情報を発信し、個々の画像に牽引されるアクセス数などのデータを採取するためのウェブサイトを(株)COOONと共同で構築した。加えて、(a)対面での会話とオンラインの会話の比較、(b)末梢神経障害と中枢神経障害の個別事例の比較などより身体イメージの観点から運動学習過程に生じる違いを考察した。ほかに、サッカーのゲーム映像の収集とその一次分析データを作成や、事例の個別性を分析する「当事者研究ワークシート」を用いたワークショップを企業対象にオンラインで行い、参加者のアンケートを分析する、アクティブラーニング型授業において、ユーザーのコミュニケーション様式と学習環境整備が発達する過程を観察し、新しい学習環境を整備するなどの研究を進めた。

2021年度は、本科研費プロジェクトで行ってきた研究のまとめとして、「知の生態学の冒険」シリーズ(全9巻)の刊行を開始した。ほかに、認知や行動のいわゆる「知的な」振る舞いにとって身体性を有する意義の研究や、小学校などのフィールドでロボットを動作させ、子どもたちとのインタラクションの様子の観察、スポーツパフォーマンスの映像について当該スポーツの専門家が言語的に記述した資料をアプリケーションで分析し、共同暗黙知の次元へといったプロセスを解明する研究、障害のある学生のための設計ツールのデザインや当事者研究の企業への導入効果の考察など、オンラインとオフラインとのハイブリッドでのインタラクションのアーカイブの構築の継続と、それらを利用した分析を行った。

2022年度は、2021年度の予算を一定額繰り越して、2021年度までにコロナ禍で実施が延期されていた「子どもの哲学」国際学会への研究発表と情報収集を中心に研究を行なった。この国際学会は、報告者が主催し、立教大学池袋キャンパス(東京)で開催された。当該国際学会は、近年注目が集まる「子どもの哲学(P4wC)」に関心を持つ研究者・実践者が世界60カ国から一堂に会する2年に1度のこの分野最大の学会であり、大会は対面とオンライン併用のハイブリッド方式で実施され、過去最大の450名の参加者登録者を記録した。大会テーマは「教室の中での哲学、そして教室を超えていく哲学：文化的・社会的・政治的な差異を越えた子どもの哲学(P4wC)(Philosophy in and beyond the Classroom: P4wC across Cultural, Social, and Political Differences)」と設定し、とりわけ、SDGs/環境教育、ジェンダー、地域創生などに関連する実践報告や理論など多様な話題において発表がなされた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計75件（うち査読付論文 33件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 29件）

1. 著者名 永井玲衣・河野哲也	4. 巻 64
2. 論文標題 オンラインでの子どもの哲学による「考え、議論する道徳」の実践：小学校5年生の道徳科	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立教大学教育学科研究年報	6. 最初と最後の頁 281-291
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 前田有香・河野哲也	4. 巻 64
2. 論文標題 オンラインでの子どもの哲学による「考え、議論する道徳」の実践：小学校4年生の道徳科	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立教大学教育学科研究年報	6. 最初と最後の頁 269-279
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Horikoshi Yosuke and Kono Tetsuya.	4. 巻 10
2. 論文標題 Philosophical Practices in Japan from School to Business Consultancy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Philosophical Practice and Counseling	6. 最初と最後の頁 5-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Osumi, M., Sano, Y., Ichinose, A., Wake, N., Yozu, A., Kumagaya, S., Kuniyoshi, Y., Morioka, S., & Sumitani, M	4. 巻 26
2. 論文標題 Direct evidence of EEG coherence in alleviating phantom limb pain by virtual referred sensation: Case report.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neurocase	6. 最初と最後の頁 55-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13554794.2019.1696368.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Wada, M., Ikeda, H., & Kumagaya, S	4. 巻 34
2. 論文標題 Atypical Effects of Visual Interference on Tactile Temporal Order Judgment in Individuals With Autism Spectrum Disorder.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Multisensory Research	6. 最初と最後の頁 129-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/22134808-bja10033.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsujita Masaki, Ban Mutsuhisa, Kumagaya Shin Ichiro	4. 巻 -
2. 論文標題 The Japanese Multidimensional Attitudes Scale Toward Persons With Autism Spectrum Disorders	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Psychological Research	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jpr.12298	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 2020年3・4月号
2. 論文標題 障害のある人への支援 [第1回] 障害のある人が望む「当事者視点」での支援とは	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 へるばる	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 2020年7・8月号
2. 論文標題 障害のある人への支援 [第2回] 障害のある人が望む「当事者視点」での支援とは	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 へるばる	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 2020年9・10月号
2. 論文標題 障害のある人への支援 [第3回] 世間で広く語られている「発達障害」への誤解を解く	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 へるばる	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 2021年1・2月号
2. 論文標題 障害のある人への支援 [第4回] 自閉スペクトラム症のある人にとっての“体験”と“記憶”のこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 へるばる	6. 最初と最後の頁 66-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 447
2. 論文標題 当事者研究からみるSDGs	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 新ノーマライゼーション	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 直久	4. 巻 20
2. 論文標題 10年前の宿題はどこまで解けたか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法と心理	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 染谷昌義	4. 巻 48巻4号
2. 論文標題 二元論の向こう側を探る自然学のプログラム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 187 195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友野貴之・山本敦・三嶋博之	4. 巻 27巻3号
2. 論文標題 すき間を通り抜けること - 間隙通過研究の動向と課題 (1987 - 2019年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 386 399
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伏木ももこ・太田和希・長谷川孔明・大島直樹・岡田美智男	4. 巻 22巻4号
2. 論文標題 ドライビングエージェント NAMIDAO におけるナッジ理論の応用について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヒューマンインターフェース学会論文誌	6. 最初と最後の頁 443 456
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西脇裕作・大島直樹・岡田美智男	4. 巻 36巻2号
2. 論文標題 多人数会話を構成するロボットの言葉足らずな発話が人の会話への参加態度に及ぼす影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人工知能学会論文誌	6. 最初と最後の頁 B-K44_1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野哲也	4. 巻 11
2. 論文標題 因果法則、物語、対話：心の科学の成り立ちと行く先	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 N:ナラティブとケア	6. 最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野哲也	4. 巻 52
2. 論文標題 感情と心理学的カテゴリー化：理論心理学からの検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 科学哲学	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 染谷昌義	4. 巻 20
2. 論文標題 アフォーダンスからの希望	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 136-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomono Takayuki、Makino Ryosaku、Furuyama Nobuhiro、Mishima Hiroyuki	4. 巻 10
2. 論文標題 How Does a Walker Pass Between Two People Standing in Different Configurations? Influence of Personal Space on Aperture Passing Methods	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2019.02651	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 田中彰吾	4. 巻 19
2. 論文標題 対話する身体: 生きた経験	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 529-532
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka Shogo, Asai Tomohisa, Kanayama Noriaki, Imaizumi Shu, Hiromitsu Kentaro	4. 巻 90
2. 論文標題 Mind-body-brain problem:	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Japanese journal of psychology	6. 最初と最後の頁 520-539
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4992/jjpsy.90.18403	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長滝祥司	4. 巻 52
2. 論文標題 感情と身体: 表層としての自己・他者について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 科学哲学	6. 最初と最後の頁 41-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Alqahtani Saleh, Joseph James, Dicianno Brad, Layton Natasha Ann, Toro Maria Luisa, Ferretti Eliana, Tuakli-Wosornu Yetsa A., Chhabra Harvinder, Neyedli Heather, Lopes Celia Regina, Alqahtani Mazen M., Van de Vliet Peter, Kumagaya Shin-Ichiro, Kim Jong-Bae, McKinney Vic, Yang Yu-Sheng, Goldberg Mary, Cooper Rory	4. 巻 19
2. 論文標題 Stakeholder perspectives on research and development priorities for mobility assistive-technology: a literature review	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Disability and Rehabilitation: Assistive Technology	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/17483107.2019.1650300	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 19
2. 論文標題 「傷」の物語：傷によってつながり傷によって回復すること	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 69-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 1287
2. 論文標題 当事者が自己決定するために何が必要なのか：運動と研究の循環によるニーズの顕在化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月刊保団連	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 162
2. 論文標題 障害者運動の軌跡から医療をみつめ、「生産性」を問い直す	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福祉労働	6. 最初と最後の頁 100-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 47
2. 論文標題 当事者研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 206-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 34
2. 論文標題 どうやってリハ工学にたどり着き、リハ工学が生み出したものを知ったか？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リハビリテーション・エンジニアリング	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千葉雅也・國分功一郎・村上靖彦・熊谷晋一郎・松本卓也	4. 巻 23
2. 論文標題 哲学×精神病理学×当事者研究: ロビンソン・クルーソーは無人島で誰に最初に会おうのか: 統合失調症から自閉症へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 精神看護	6. 最初と最後の頁 36-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 立岩真也・熊谷晋一郎	4. 巻 47
2. 論文標題 「痛いのは困る」から問う障害と社会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 221-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 101
2. 論文標題 スティグマと健康格差	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 1346-1349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 60
2. 論文標題 ソーシャル・マジョリティ研究：2. 当事者研究とは何か？	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 情報処理	6. 最初と最後の頁 955-958
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Osumi Michihiro, Sano Yuko, Ichinose Akimichi, Wake Naoki, Yozu Arito, Kumagaya Shin-Ichiro, Kuniyoshi Yasuo, Morioka Shu, Sumitani Masahiko	4. 巻 26
2. 論文標題 Direct evidence of EEG coherence in alleviating phantom limb pain by virtual referred sensation: Case report	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Neurocase	6. 最初と最後の頁 55-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13554794.2019.1696368	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田美智男	4. 巻 Vol.63, No.6
2. 論文標題 他者を味方にする 弱いロボット たち	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 システム / 制御 / 情報	6. 最初と最後の頁 229-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11509/isciesci.63.6_229	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 香川 真人、岡田 美智男	4. 巻 25
2. 論文標題 球状変形ロボット Column を介した共同的な遊びとのおもしろさについて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本バーチャルリアリティ学会論文誌	6. 最初と最後の頁 95-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18974/tvrsj.25.1_95	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長谷川 孔明、林 直樹、岡田 美智男	4. 巻 21
2. 論文標題 マコにて：並ぶ関係に基づく原初的コミュニケーションの研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒューマンインタフェース学会論文誌	6. 最初と最後の頁 279-292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11184/his.21.3_279	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Karatas Nihan, Tamura Shintaro, Fushiki Momoko, Okada Michio	4. 巻 34
2. 論文標題 Improving Human-Autonomous Car Interaction Through Gaze Following Behaviors of Driving Agents	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Transactions of the Japanese Society for Artificial Intelligence	6. 最初と最後の頁 A ~ IA1_1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1527/tjsai.A-IA1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳澤田実	4. 巻 46
2. 論文標題 純粋な贈与はどこにあるのか、なぜあるのか：BatailleからBaumardへ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 182-193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shogo Tanaka	4. 巻 25
2. 論文標題 hat is it like to be disconnected from the body?: A phenomenological account of disembodiment in depersonalization/derealization disorder	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Consciousness Studies	6. 最初と最後の頁 239-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shogo Tanaka	4. 巻 1
2. 論文標題 Bodily basis of the diverse modes of the self	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Human Arenas	6. 最初と最後の頁 223-230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42087-018-0030-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中彰吾	4. 巻 26
2. 論文標題 プロジェクトン科学における身体の役割 - 身体錯覚を再考する	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 140-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 34
2. 論文標題 依存症自助グループの伝統と当事者研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本嗜癪行動学会誌	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 155
2. 論文標題 身体からみる障害・発達障害をもつ子どもの生きている世界	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 54-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 18
2. 論文標題 体験としての発達と障害：当事者研究から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 143-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 巻 14
2. 論文標題 支援付き意思決定：その法理・実践研究・当事者性について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 障害学研究	6. 最初と最後の頁 67-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ohmura, Y., Ichikawa, I., Kumagaya, S., & Kuniyoshi, Y.	4. 巻 237
2. 論文標題 Stapedial reflex threshold predicts individual loudness tolerance for people with autistic spectrum disorders	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Experimental Brain Research	6. 最初と最後の頁 91-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00221-018-5400-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松下仁美、香川真人、山村祐之、岡田美智男	4. 巻 20
2. 論文標題 非流暢性を伴うロボット(Talking-Ally)の発話調整方略とその聞き手に対する適応に関する研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヒューマンインタフェース学会論文誌	6. 最初と最後の頁 255-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11184/his.20.2_255	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西脇裕作, 板敷尚, 岡田美智男	4. 巻 21
2. 論文標題 ロボットの言葉足らずな発話が生み出す協調的インタラクションについて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒューマンインタフェース学会論文誌	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11184/his.21.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田美智男	4. 巻 247
2. 論文標題 パーソナルユースのコミュニケーションロボット 総論、特集II- パーソナルユースのコミュニケーションロボット	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ロボット	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森直久	4. 巻 1
2. 論文標題 多様な目標の設定が可能な学習環境における、生態心理学的アプローチによる学習困難解消研究の構想	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 札幌学院大学心理学部紀要	6. 最初と最後の頁 57-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森直久	4. 巻 30
2. 論文標題 これからの時代と社会で、どのようなアクティブラーニングが必要か	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本商業教育学会北海道部会研究会会報	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 河野 哲也	4. 巻 21
2. 論文標題 知覚の扉は開き、一切の欲は解消したか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 メルロ = ポンティ研究	6. 最初と最後の頁 68-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KONO, Tetsuya, MURASE, Tomoyuki, TERADA, Toshiro, and TSUCHIYA, Yohsuke	4. 巻 12
2. 論文標題 Recent Development of Philosophical Practice in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of the APPA	6. 最初と最後の頁 1935-1946
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 得居 千照、河野 哲也	4. 巻 61
2. 論文標題 子どもの哲学における対話型教育の評価法: 道徳教育と総合的な学習への導入を視野にいれて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 立教大学教育学科研究年報	6. 最初と最後の頁 3-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野 哲也	4. 巻 11
2. 論文標題 哲学の社会的責任: 哲学対話 + 地方創生の教育の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 21世紀倫理創生研究	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 染谷 昌義	4. 巻 15
2. 論文標題 「知覚の哲学」は知覚経験の本性に迫れるか 小草泰氏と葛谷潤氏への応答	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 フッサル研究	6. 最初と最後の頁 76-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ito Mariko, Mishima Hiroyuki	4. 巻 21
2. 論文標題 Optical Information to Guide the Head and Handle Movements While Playing Kendama	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Ecological Psychology	6. 最初と最後の頁 1~28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10407413.2018.1438197	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 友野 貴之、古山 宣洋、三嶋 博之	4. 巻 24
2. 論文標題 人はいかにして人と人を通り抜けられると判断するのか？	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 435~449
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11225/jcss.24.435	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 友野 貴之、古山 宣洋、三嶋 博之	4. 巻 25
2. 論文標題 間隙をつくる障害物の“人らしさ”は、通り抜け行為に影響を与えるか？ 間隙の通過可否判断研究からの一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 認知科学	6. 最初と最後の頁 117-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳澤 田実	4. 巻 2017年9月臨時増刊号
2. 論文標題 「こども」というエチカ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想2017年9月臨時増刊号（総特集 = かこさとし）	6. 最初と最後の頁 102-105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka, Shogo	4. 巻 Special Issue 2017
2. 論文標題 The body as the intersection between individuality and collectivity	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Civilizations	6. 最初と最後の頁 128-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka, Shogo	4. 巻 27
2. 論文標題 Intercorporeality and aida: Developing an interaction theory of social cognition	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Theory & Psychology	6. 最初と最後の頁 337 ~ 353
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/0959354317702543	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Lin I-Fan, Hiroya Sadao, Asada Kosuke, Ayaya Satsuki, Kumagaya Shin-ichiro, Kato Masaharu	4. 巻 39
2. 論文標題 Vocal analysis of speech in adults with autism spectrum disorders	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Acoustical Science and Technology	6. 最初と最後の頁 154 ~ 157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1250/ast.39.154	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Asada Kosuke, Tojo Yoshikuni, Hakarino Koichiro, Saito Atsuko, Hasegawa Toshikazu, Kumagaya Shinichiro	4. 巻 48
2. 論文標題 Brief Report: Body Image in Autism: Evidence from Body Size Estimation	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Autism and Developmental Disorders	6. 最初と最後の頁 611 ~ 618
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10803-017-3323-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fukuyama Hiroshi, Kumagaya Shin-ichiro, Asada Kosuke, Ayaya Satsuki, Kato Masaharu	4. 巻 7
2. 論文標題 Autonomic versus perceptual accounts for tactile hypersensitivity in autism spectrum disorder	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 8259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-08730-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inui Toshio, Kumagaya Shinichiro, Myowa-Yamakoshi Masako	4. 巻 11
2. 論文標題 Neurodevelopmental Hypothesis about the Etiology of Autism Spectrum Disorders	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Frontiers in Human Neuroscience	6. 最初と最後の頁 354
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnhum.2017.00354	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aramaki Eiji, Shikata Shuko, Ayaya Satsuki, Kumagaya Shin-Ichiro	4. 巻 6
2. 論文標題 Crowdsourced Identification of Possible Allergy-Associated Factors: Automated Hypothesis Generation and Validation Using Crowdsourcing Services	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 JMIR Research Protocols	6. 最初と最後の頁 e83 ~ e83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2196/resprot.5851	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 熊谷 晋一郎	4. 巻 66
2. 論文標題 自閉スペクトラム症の社会モデル的な支援に向けた情報保障のデザイン：当事者研究の視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 保健医療科学	6. 最初と最後の頁 532-544
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 綾屋 紗月、上岡 陽江	4. 巻 45
2. 論文標題 発達障害と依存症の仲間が交差するところ：私たちのコミュニケーション方法の開拓と継承	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 161-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Youssef Khaoula, Okada Michio	4. 巻 9
2. 論文標題 How a Minimally Designed Robot can Help Implicitly Maintain the Communication Protocol	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Communications	6. 最初と最後の頁 431 ~ 448
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12369-017-0398-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Karatas, Nihan, Yoshikawa, Soshi, Tamura, Shintaro, Otaki, Sho, Funayama, Ryuji and Okada, Michio	4. 巻 2017
2. 論文標題 Sociable Driving Agents to Maintain Driver 's Attention in Autonomous Driving	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 26th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication	6. 最初と最後の頁 143-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田 美智男	4. 巻 22
2. 論文標題 社会的ロボティクス(関係性を促すロボット開発)の立場からみたケアサイエンスの必要性への見解	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 79-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田 美智男	4. 巻 26
2. 論文標題 不完全さを認め、相手に委ねる姿勢が支え合いを引き出す：“弱いロボット”を通して見えてくるもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヒューマンスキル教育研究	6. 最初と最後の頁 88-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 直江 清隆	4. 巻 50
2. 論文標題 人工物と集合的暗黙知：参加によるセンスメイキングはいかにして可能であるか？	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 思索	6. 最初と最後の頁 31-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計122件（うち招待講演 51件 / うち国際学会 46件）

1. 発表者名 河野哲也
2. 発表標題 ポスト現象学とネット空間内の自己
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会 公募シンポジウム「ネットメディアの生態心理学」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kono Tetsuya
2. 発表標題 Ghost in Cyber Networks: The Problem of Agency and Boundary of Man-Technology Network
3. 学会等名 Philosophy of Human-Technology Relations Conference 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中彰吾
2. 発表標題 間身体性から見た対面とオンラインの会話
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会 公募シンポジウム「ネットメディアの生態心理学」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中彰吾
2. 発表標題 二つの神経病理事例から運動学習を考える
3. 学会等名 第41回 バイオメカニズム学会学術講演会・シンポジウム「感覚運動学習のバイオメカニズム」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shoji NAGATAKI
2. 発表標題 Digitalization, Communication, and Robotics: Digitalizing Humanity?
3. 学会等名 Philosophy of Human-Technology Relations Conference2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 身体性と運動性 - キスの制御則に示される心のはたらき -
3. 学会等名 玉川大学応用脳科学研究センター「心の哲学研究部門」第14回研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kiyotaka Naoe
2. 発表標題 Tactics in Human-Technology Relations
3. 学会等名 Philosophy of Human-Technology Relations Conference2020（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田美智男
2. 発表標題 発話の非流暢性とごちなさ
3. 学会等名 日本認知学会第37回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野哲也
2. 発表標題 人口と集中を抑制する新しい文化について
3. 学会等名 日本哲学会第七十八回年次大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Kono, Tetsuya
2. 発表標題 The Possibility of the Vegetable Mind as a Counter-concept of the Cartesian Mind
3. 学会等名 ISTP (The International Society for Theoretical Psychology) 2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kono, Tetsuya
2. 発表標題 Maai as a field of promoted action
3. 学会等名 科研費「生態学的現象学による個別事例学の哲学的基礎付けとアーカイブの構築」主催ワークショップ“Radial Embodied Cognition, East and West”(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野哲也
2. 発表標題 アフォーダンスによる個別事例の研究：映像分析による事例の汎用性
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会公募シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野哲也
2. 発表標題 「臨床神経学と現象学」趣旨説明
3. 学会等名 科研費基盤(A)「生態学的現象学による個別事例学の哲学的基礎付けとアーカイブの構築(17H00903)」主催ワークショップ「臨床神経学と現象学」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野哲也
2. 発表標題 環境問題と人口と集中を抑制する新しい文化について
3. 学会等名 比較文明学会例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kono, Tetsuya
2. 発表標題 The Concept of Ma and Maai in Zeami and Munenori Yagyu
3. 学会等名 International Society of East Asian Philosophy 2019 Conference（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳澤田実
2. 発表標題 道徳基盤理論の＜聖不浄＞基盤を中心とした日本人の道徳的判断の検討
3. 学会等名 日本人間行動進化学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka, Shogo
2. 発表標題 Body image as a product of interactions between the self and the other
3. 学会等名 38th International Human Science Research Conference（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka, Shogo
2. 発表標題 Motor learning and body schema/image distinction
3. 学会等名 Workshop: Radical Embodied Cognition (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中彰吾
2. 発表標題 現象学的認知科学の可能性
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka, Shogo
2. 発表標題 Intercorporeality and Aida: An alternative view of social understanding
3. 学会等名 International Society for East Asian Philosophy 2019 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nagataki, S. and Yamada, S.
2. 発表標題 Facial and Behavioral Expression as a Clue to understanding Other Minds: from a philosophical and an experimental viewpoints
3. 学会等名 4th Avant Conference : Trends in Interdisciplinary Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kumagaya, Shinichiro
2. 発表標題 Introduction to Tojisha-kenkyu: Co-production of autism research in Japan
3. 学会等名 UK-Japan Symposium: Research on Autism Spectrum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 片山善博・熊谷晋一郎・児島亜紀子・岩崎晋也・大谷京子
2. 発表標題 ソーシャルワークの価値再考: 「個人の尊厳」の根拠をどこに求めるか
3. 学会等名 第67回日本社会福祉学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 ソーシャルワークと当事者研究
3. 学会等名 第67回日本医療社会福祉協会全国大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kumagaya, Shinichiro
2. 発表標題 Toward Alternative Designs of Sociality and Language Based on Pattern-Finding Characteristics of Autistic Individuals
3. 学会等名 Deleuze/Guattari Camp 2019 Tokyo (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 当事者研究と共同創造
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 学知による支援
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会（AHEAD JAPAN）第5回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 語りのチカラ：発見・リカバリー・反スティグマ
3. 学会等名 第16回日本アディクション看護学会学術シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 身体障害者の海外渡航
3. 学会等名 第23回日本渡航医学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 当事者研究と共同創造
3. 学会等名 日本認知科学会第36回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 綾屋紗月・熊谷晋一郎・上岡陽江
2. 発表標題 当事者研究ワークシートを用いたワークのテーマ分析
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第8回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 辻田匡葵・熊谷晋一郎・鈴木悠平・本間美穂・佐飛実弥・長井志江
2. 発表標題 自閉スペクトラム症知覚体験ワークショップが定型発達者のネガティブな態度に及ぼす影響
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第9回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和田真・梅沢侑実・佐野美沙子・田島世貴・熊谷晋一郎・宮崎真
2. 発表標題 メチルフェニデートが触覚時間順序判断におけるベイズ推定の障害に及ぼす影響についての予備的検討
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第10回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 和田真・梅沢侑実・佐野美沙子・田島世貴・熊谷晋一郎・宮崎真
2. 発表標題 視聴覚時間順序判断で生じるラグアダプテーションは自閉傾向によらず生じる
3. 学会等名 第11回多感覚研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Wada, Makoto, Ikeda, Hanako, and Kumagaya, Shinichiro
2. 発表標題 Effect of rubber hand presentation on cross-modal dynamic capture in individuals with autism spectrum disorder
3. 学会等名 第42回日本神経科学大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hsieh, Jyh-Jong, Nagai, Yukie, Kumagaya, Shinichiro, Ayaya, Satsuki and Asada, Minoru
2. 発表標題 Atypical Auditory Perception in Autism Spectrum Disorder: A Synthetic Approach to Evaluate the Perceptual Patterns and Environmental Causes
3. 学会等名 The International Society for Autism Research Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田美智男
2. 発表標題 ソーシャルなロボットにむけた関係論的なアプローチ
3. 学会等名 人工知能学会 対話システムシンポジウム 特別講演 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡田美智男
2. 発表標題 弱いロボット の研究： ソーシャルなロボットにむけた関係論的なアプローチ
3. 学会等名 日本ロボット学会 ロボット考学研究専門委員会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinpei Onoda, Yusaku Nishiwaki, and Michio Okada
2. 発表標題 Interaction Design and Field Study of a Forgetful Social Robot, "Talking-Bones"
3. 学会等名 The 7th International Conference on Human-Agent Interaction (HAI '19), (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoe, Kiyotaka
2. 発表標題 Trust in Human - Robot - Interaction
3. 学会等名 The 21st Conference of the Society for Philosophy and Technology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 直江 清隆
2. 発表標題 廣松哲学と一人称的視点
3. 学会等名 中山大学（中国）講演（招待講演）
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Naoe, Kiyotaka
2. 発表標題 Emotion and Collective Action
3. 学会等名 International Philosophical Workshop Philosophy of Emotion and Community (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森直久
2. 発表標題 供述の心理学的評価：これまでの供述評価・分析手法について心理・法学・法曹実務の視点から考える
3. 学会等名 法と心理学会第20回大会公開シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森直久
2. 発表標題 これからの時代の高校生の幸せをともに考える
3. 学会等名 北海道立北広島西高等学校講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Gaillard, M., He, J., Kono, T., Roy, J-M., Yu, F., Zhu, X.
2. 発表標題 Embodied cognition and technology
3. 学会等名 24th World Congress of Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 企画代表者・話題提供者: 境敦史 (明星大学), 司会・話題提供者: 小松英海 (慶應義塾大学), 指定討論者: 河野哲也
2. 発表標題 「ギブソンの存在論と情報の概念」日本心理学会第82回大会公募シンポジウム『過程存在論に立った知覚研究の可能性とその意義に関する再検討』
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 オーガナイザー・提題者: 染谷昌義 (高千穂大学), 河野哲也 (立教大学), 長滝祥司 (中京大学), 野中哲士 (神戸大学)
2. 発表標題 「事例研究はいかにして「客観的」たりえ、他者に利用可能たりうるか?」日本心理学会第82回大会公募シンポジウム『事例研究はいかにして「客観的」たりえ、他者に利用可能たりうるか?』
3. 学会等名 日本科学哲学会第51回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kono, Tetsuya
2. 発表標題 Urbanization and the Wilderness
3. 学会等名 Society for Social Studies of Science 2018 Sydney (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kono Tetsuya
2. 発表標題 Phenomenology of the Vegetable Mind
3. 学会等名 World Conference on Phenomenology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野哲也
2. 発表標題 拡張した心と拡散した言語
3. 学会等名 AIと文化の研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野哲也
2. 発表標題 アプリ事例報告会
3. 学会等名 「生態学的現象学による個別事例学の哲学的基礎付けとアーカイブの構築」年度例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 行動に還る：身体論の展開と身体性の意味
3. 学会等名 日本科学哲学会第51回大会シンポジウム「行動に還る 感情・表情・身体動作」提題
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 生態学的身体論：日常を生きるスキルを支える身体の仕組み
3. 学会等名 アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「「わざ」の人類学的研究 - 技術、身体、環境」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 染谷昌義
2. 発表標題 22世紀のAIの哲学：人間本性論から資源本性論への方向転換
3. 学会等名 JST/RISTEX「人と情報のエコシステム」研究開発領域プロジェクト「人と情報のテクノロジーの共生のための人工知能の哲学2.0の構築」シンポジウム提題
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tomono, T., Mishima, H., Furuyama, N
2. 発表標題 Perceiving Affordances for Aperture Crossing between Two People Standing in Various Directions
3. 学会等名 The 2018 North American Meeting of the International Society for Ecological Psychology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三嶋 博之
2. 発表標題 事例研究はいかにして「客観的」たりえ、他者に利用可能たりうるか？
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳澤田実
2. 発表標題 道徳性の進化と宗教に関する経験的研究の意義を考える
3. 学会等名 土井道子記念京都哲学基金シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳澤田実
2. 発表標題 道徳・宗教・市場経済 J・ヘンリックの議論の可能性と問題点
3. 学会等名 日本宗教学会第77回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shogo Tanaka
2. 発表標題 "My body" as a product of interactions between the self and the other
3. 学会等名 37th International Human Science Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shogo Tanaka
2. 発表標題 What is subjectively experienced in full-body illusion experiments?
3. 学会等名 24th World Congress of Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shogo Tanaka
2. 発表標題 Body, self and the other in Taijin Kyofusho
3. 学会等名 Time, the Body, and the Other: Phenomenological and Psychopathological Approaches (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中彰吾
2. 発表標題 運動学習における身体イメージの役割を再考する
3. 学会等名 第19回認知神経リハビリテーション学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shogo Tanaka
2. 発表標題 Understanding the symptoms of Taijin Kyofusho from an embodied perspective
3. 学会等名 International Workshop on Philosophy of Psychiatry（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中彰吾
2. 発表標題 自己はどこまで脱身体化できるか？
3. 学会等名 先導的人文学・社会科学研究推進事業「アイデンティティの内的多元性」第1回公開シンポジウム「自己をめぐる冒険」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長滝祥司
2. 発表標題 行動に還る 感情・表情・身体動作 深/表 層としての 心-自己 :感情・表情・身体動作
3. 学会等名 日本科学哲学会第51回大会シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shoji Nagataki
2. 発表標題 The Self as What Appears on the Surface: Emotion and Expression
3. 学会等名 SPM 20th International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 発達障害当事者研究の概念：発達障害者とのコミュニケーションなど
3. 学会等名 清洲福祉財団・精神保健センター・忠北大障害支援センター・ヘウオン福祉館主催第2回日韓国際学術交流ワークショップ：障害当事者が語る挑戦的行動の理解とコミュニケーション法（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kumagaya, S.
2. 発表標題 Democratizing science and medicine: Introduction to Tojisha-Kenkyu (User-led research)
3. 学会等名 Sixth Edition of the Cross-disciplinary and International RCAST Workshop: TOWARDS NEW (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kumagaya, S.
2. 発表標題 Toward Democratization of Science and Medicine --Introduction to Tojisha-Kenkyu (user-led research) on Autism Spectrum Conditions
3. 学会等名 ICDL-EpiRob 2018 Workshop: Understanding Developmental Disorders (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kumagaya, S.
2. 発表標題 Democratizing science and medicine: Introduction to Tojisha-Kenkyu (User-led research)
3. 学会等名 Dialogue towards an Inclusive Society (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kumagaya, S.
2. 発表標題 Introduction to Tojisha-kenkyu in Japan: Co-production of self-knowledge and its pro-recovery, anti-stigma effects
3. 学会等名 International Symposium on Adolescent Health and Personalized Value (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kumagaya, S.
2. 発表標題 Introduction to Tojisha-kenkyu in Japan: Co-creating narratives within the invisible
3. 学会等名 An International Symposium, CripTech: Disability, Technology, Architecture, and Design (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kumagaya, S.
2. 発表標題 Toward Democratization of Science and Medicine: Introduction to Tojisha-Kenkyu (user-led research) on Autism Spectrum Conditions
3. 学会等名 International Symposium on Predictive Coding Account for Autism Spectrum Disorder (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 わたしと地域、二つのLIFETIMEから回復を考える
3. 学会等名 REDDY公開研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 スティグマへの抵抗：障害と依存症を例に
3. 学会等名 日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第50回記念香川大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 当事者研究から見えてきた自閉スペクトラム症
3. 学会等名 第20回東大小児科小児神経わかて会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 保育・教育・教育の現場で大切にしたいもの
3. 学会等名 こども家族早期発達支援学会学術集会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 支援付き意思決定: その法理・実践研究・当事者性について
3. 学会等名 AMED難病班22q11.2欠失症候群・統合的支援研究(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 動きの誕生～身体外協応構造
3. 学会等名 第5回小児理学療法学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 当事者研究と専門知～獣道と舗装道路をつなぐ共同創造～
3. 学会等名 アメニティーフォーラム23(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 熊谷晋一郎
2. 発表標題 発見: 当事者研究と科学の共同創造 社会モデルに基づく自閉症スペクトラム症の理論構築と実証実験
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第7回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nishiwaki, Yusaku and Itashiki, Sho and Karatas, Nihan and Okada, Michio
2. 発表標題 Cooperative Interactions Generated by Incompleteness in Robots' Utterance
3. 学会等名 Proceedings of the 6th International Conference on Human-Agent Interaction (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kiyotaka Naoe
2. 発表標題 How can we Relate to Things that Reelate to us: Expression of "Robots"
3. 学会等名 3rd Dutch-Japanese Workshop on Philosophy of Technology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 直久
2. 発表標題 密教の叡智を西洋世界にもたらす日本型コーチング
3. 学会等名 アカデミック・コーチング学会第3回大会発表
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 直久
2. 発表標題 TEA (複線径路等至性アプローチ) が切り開く未来
3. 学会等名 第1回 TEA国際学会(Transnational Meeting on TEA)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kono, Tetsuya
2. 発表標題 What is work for human beings after AI dominance?
3. 学会等名 20th Conference of The Society for Pilosophy of Technology ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kono, Tetsuya
2. 発表標題 Is Pain an Unsharable Sensation?: A View from Pragmatism and Gibsonian Theory of Perception
3. 学会等名 19th International Conference on Perception and Action ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野 哲也
2. 発表標題 持続可能な地方創生と哲学対話
3. 学会等名 平成29年度第3回 科学技術倫理教育に関する研究会 ( 招待講演 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kono, Tetsuya
2. 発表標題 Mind as an actor-network
3. 学会等名 The 17th Biennial conference of the International Society for Theoretical Psychology, Co-presenters: ( 国際学会 )
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野 哲也
2. 発表標題 発達のアフォーダンス事典の開発
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kono, Tetsuya
2. 発表標題 Transcendental Subjectivity as Actor network and the First Person Perspective
3. 学会等名 日本現象学会第39回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野 哲也
2. 発表標題 思考力と判断力を育てる道德教育
3. 学会等名 静岡県教育のつどい
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野 哲也
2. 発表標題 人工知能に代替されない能力とその教育を考える
3. 学会等名 第24回 大学教育研究フォーラムシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野 哲也
2. 発表標題 対話プログラム
3. 学会等名 日本シティズンシップ教育フォーラム (J-CEF) ワークショップ (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 染谷 昌義
2. 発表標題 ネオ・ゲシュタルティズム (高次モード知覚説) に託された希望 知覚の哲学の行く末を見ずえて
3. 学会等名 日本科学基礎論学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Someya, Masayoshi
2. 発表標題 What does the Ecological Approach Learn from Pragmatism: William James ' View of Percept and Concept
3. 学会等名 19th International Conference on Perception and Action (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 染谷 昌義
2. 発表標題 22世紀の身体論 荒川 + ギンズとともに 受容し変化する能力としての主体性
3. 学会等名 表象文化論学会第12回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tomono, T., Furuyama, N., & Mishima, H.
2. 発表標題 How Do People Perceive Affordances for Passing Between Two People Facing in Different Directions?
3. 学会等名 The 19th International Conference on Perception and Action (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 友野 貴之、古山 宣洋、三嶋 博之
2. 発表標題 人と人の間の通過行動は、物と物の間の通過行動とどのように違うのか
3. 学会等名 第5回生態心理学とリハビリテーションの融合研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中彰吾
2. 発表標題 現象学的心理学と社会構築主義
3. 学会等名 国際シンポジウム「社会構築主義と臨床の現場」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tanaka, Shogo
2. 発表標題 Body schema and body image in motor learning: Refining Merleau-Pontian notion of body schema
3. 学会等名 International Symposium: Body Schema and Body Image (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nagataki, Shoji
2. 発表標題 Similarity and Alterity: How Machines Become Moral Agents
3. 学会等名 4S/EASST CONFERENCE Boston-2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nagataki, Shoji
2. 発表標題 Scientific Technology and Transformation of Humanity : From a (Post)phenomenological Viewpoint
3. 学会等名 日本現象学会第39回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nagataki, Shoji
2. 発表標題 Reducing Risks: Technology and Human Vulnerability
3. 学会等名 SPM 20th International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 熊谷 晋一郎
2. 発表標題 当事者研究とは何か
3. 学会等名 第36回日本看護科学学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 熊谷 晋一郎
2. 発表標題 ソーシャルスキルから情報保障へ：社会モデルに基づく就労支援に向けて
3. 学会等名 第27 回日本産業衛生学会全国協議会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 熊谷 晋一郎
2. 発表標題 当事者研究への招待
3. 学会等名 第60回日本病院・地域精神医学会総会 まつもと市民芸術館（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 熊谷 晋一郎
2. 発表標題 障害のある人たちの自己理解総論
3. 学会等名 日本臨床心理士会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 熊谷 晋一郎
2. 発表標題 依存症自助グループの伝統と当事者研究
3. 学会等名 第28回日本嗜癮行動学会仙台大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 熊谷 晋一郎
2. 発表標題 当事者研究がめざす言葉・知識・価値のバリアフリー
3. 学会等名 日本福祉のまちづくり学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 熊谷 晋一郎
2. 発表標題 当事者研究について
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第6回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 浅田 晃佑、東條 吉邦、計野 浩一郎、齋藤 慈子、長谷川 寿一、熊谷 晋一郎
2. 発表標題 自閉スペクトラム症者におけるパーソナルスペースの縦断変化
3. 学会等名 日本発達心理学会第28回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 熊谷 晋一郎、綾屋 紗月、上岡 陽江、山根 耕平、五十公野 理恵子、向谷地 宣明、宮路 天平、山口 拓洋、向谷地 生良
2. 発表標題 当事者研究を活用した自閉スペクトラム症に対する当事者主導型臨床試験の試み
3. 学会等名 日本臨床試験学会第9回学術集会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 辻田 匡葵、熊谷 晋一郎、鈴木 悠平、本間 美穂、山本 彩加、長井 志江
2. 発表標題 自閉スペクトラム症視覚体験がスティグマに及ぼす影響の予備的検討
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第6回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 熊谷 晋一郎、綾屋 紗月、上岡 陽江、向谷地 生良
2. 発表標題 自閉スペクトラム症に対する当事者主導型臨床試験の試み
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第6回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 綾屋 紗月、上岡 陽江、向谷地 生良、熊谷 晋一郎
2. 発表標題 当事者研究の方法における共通要素と多様性に関する研究
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第6回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伴 睦久、熊谷 晋一郎
2. 発表標題 計算論的精神医学の圏論的構成と社会モデルへの拡張
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第6回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木 悠平、本間 美穂、山本 彩加、熊谷 晋一郎、辻田 匡葵、長井 志江
2. 発表標題 非ASD者によるASD者への理解・共感を目的としたVR疑似体験ワークショップの開発と実証研究プロトコルの検討
3. 学会等名 日本発達神経科学学会第6回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Asada, K., Tojo, Y., Hakarino, K., Saito, A., Hasegawa, T., & Kumagaya, S.
2. 発表標題 Characteristics of body image in individuals with autism spectrum disorder
3. 学会等名 国際自閉症カンファレンス2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Okada, Michio
2. 発表標題 Weak Robots: Human-dependent Robot and Social Embeddedness
3. 学会等名 The 17th Biennial Conference of The International Society of Theoretical Psychology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naoe, Kiyotaka
2. 発表標題 Artifacts and Participatory Sensemaking
3. 学会等名 日本現象学会第39回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Naoe, Kiyotaka
2. 発表標題 Artifacts and Tacit Knowledge
3. 学会等名 Budapest Workshop on Philosophy of Technology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計42件

1. 著者名 河野 哲也、得居 千照、永井 玲衣	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 ゼロからはじめる哲学対話	

1. 著者名 河野 哲也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 288
3. 書名 じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン 増補版	

1. 著者名 河野 哲也	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 224
3. 書名 問う方法・考える方法	

1. 著者名 佐藤公治、田中彰吾、篠原和子、本田慎一郎、玉木義規、中里瑠美子、三上恭平	4. 発行年 2020年
2. 出版社 協同医書出版社	5. 総ページ数 196
3. 書名 臨床のなかの物語る力（「レクチャー 「私」の多様なありかた」（田中彰吾））(42-69)	

1. 著者名 河野哲也、山口真美、金沢創、渡邊克巳、田中章浩、床呂郁哉、高橋康介	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 464
3. 書名 顔身体学ハンドブック	

1. 著者名 エドワード・S・リード 村田純一、染谷昌義、鈴木貴之（共訳）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 講談社学術文庫	5. 総ページ数 478
3. 書名 魂から心へ - 心理学の誕生	

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 280
3. 書名 当事者研究 等身大の わたし の発見と回復	

1. 著者名 國分功一郎,熊谷晋一郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 432
3. 書名 責任 の生成 - 中動態と当事者研究	

1. 著者名 熊谷 晋一郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ジャパンマシニスト社	5. 総ページ数 204
3. 書名 お母さんの当事者研究 (ちいさい・おおきい・よわい・つよい No.127)	

1. 著者名 熊谷晋一郎,山田真	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ジャパンマシニスト社	5. 総ページ数 192
3. 書名 なぜ、親は「正しさ」を押し付けてしまうのか? (ちいさい・おおきい・つよい・よわい No.128)	

1. 著者名 熊谷晋一郎, 伊藤亜紗, 野澤和弘, 石田祐貴, いちむらみさこ, 今井出雲, 大島真理佳, 笠嶋敏, 桐島優太, 坂爪真吾, 高木佑透, 玉木幸則, 馬場拓也, haru, 樋口直美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 256
3. 書名 わたしの身体はままならない: 障害者のリアルに迫るゼミ 特別講義(「液化化した世界の歩きかた」(熊谷晋一郎))(27-52)	

1. 著者名 熊谷晋一郎 土橋圭子, 渡辺慶一郎編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 249
3. 書名 発達障害・知的障害のための合理的配慮ハンドブック(「第3章 大学」(川島聡・熊谷晋一郎))(91-119)	

1. 著者名 河野 哲也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 248
3. 書名 人は語り続けるとき, 考えていない	

1. 著者名 Murakami, Kyoko, Creswell, Jim, Kono, Tetsuya, and Zitoun, Tania (Eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Captus University Publications	5. 総ページ数 284
3. 書名 The Ethos of Theorizing. Peer-reviewed, Edited and Selected Proceedings of the Seventeenth Biennial Conference of the International Society of Theoretical Psychology (Chapter 25: Understanding Your Own Words: Identifying Patients with Schizophrenia Using the Program of Tojisha Kenkyu, Mukaiyachi, Ikuyoshi, Kono, Tetsuya, Kodama, Chiharu, and Hoshino, Yoshiko) (245-261)	

1. 著者名 Lam, Chi-Ming (Ed.), Shiaoping Tian, Zhenyu Gao, Jessica Ching-Sze Wang, Peter Mau-Hsiu Yang and Jane Parish Yang, Satoshi Higuchi and Laurance J. Splitter, Tetsuya Kono and Shogo Shimizu, Mitsuyo Toyoda, Takara Dobashi, Chi-Ming Lam	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 208
3. 書名 Philosophy for Children in Confucian Societies: In Theory and Practice (Chapter 9. The Development of P4C in Japanese Society and the Challenges for Practitioners, Kono, Tetsuya and Shimizu, Shogo) (141-155)	



<p>1. 著者名 三村尚彦・門林岳史編、レンスケ・マリア・ファン・ダム、大貫菜穂、磯崎新、本間桃世、小室弘毅、松田剛佳、森田真生、山岡信貴、辻真悟、ST・ルック、富井玲子、岡村心平、染谷昌義、村川治彦、稲垣諭、アマラ・マグローリン、手塚美和子、アイリーン・ソヌ、伊村靖子、松井茂、エイドリアン・ハート、小林園子、木田真理子、小石祐介著</p>	<p>4. 発行年 2019年</p>
<p>2. 出版社 フィルムアート社</p>	<p>5. 総ページ数 320</p>
<p>3. 書名 22世紀の荒川修作 + マドリン・ギンズ (第2部 ヘレン・ケラー経験はアラカワ作品をどう見せるか: ウィリアム・ジェイムズから示唆を得る、染谷昌義) (136-141)</p>	
<p>1. 著者名 W. J. Silva-Filho &amp; L. Tateo (Eds.), Ernest Sosa, Christopher Kelp, John Greco, Duncan Pritchard, Plinio Junqueira Smith, Robert E. Innis, Raffaele De Luca Picione, Shogo Tanaka, Miika Vahamaa</p>	<p>4. 発行年 2019年</p>
<p>2. 出版社 Springer Nature</p>	<p>5. 総ページ数 178</p>
<p>3. 書名 Thinking About Oneself (Chapter 9: Bodily origin of self-reflection and Its socially extended aspects, Tanaka, Shogo ) (141-156)</p>	
<p>1. 著者名 Olga Louchakova-Schwartz (Ed.), Olga Louchakova-Schwartz, Shogo Tanaka, Patrick Laude, Espen Dahl, Sam Mickey, Michael Barber, Massimo Mezzanzanica, Peter Costello, Christopher Andrew DuPee, Leonardo Marcato, Joshua Cockayne, Adrian Razvan Sandru, Carla Canullo, Bianca Bellini, Jana Trajtelova</p>	<p>4. 発行年 2019年</p>
<p>2. 出版社 Springer Nature</p>	<p>5. 総ページ数 339</p>
<p>3. 書名 The Problem of Religious Experience (Chapter 2: Reconnecting the self to the divine, Tanaka, Shogo) (27-38)</p>	
<p>1. 著者名 熊谷 晋一郎</p>	<p>4. 発行年 2019年</p>
<p>2. 出版社 ジャパンマシニスト社</p>	<p>5. 総ページ数 192</p>
<p>3. 書名 小児科の先生が車椅子だったら: 私とあなたの「障害」のはなし</p>	

1. 著者名 内田 良子、熊谷 晋一郎、山口 和彦、山田 真	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ジャパンマシニスト社	5. 総ページ数 192
3. 書名 「痛み」の医学 こども編（「長びく痛みとつきあうなかで見つけたこと」（熊谷晋一郎））(88-111)	

1. 著者名 熊谷 晋一郎、上岡 陽江	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ジャパンマシニスト社	5. 総ページ数 184
3. 書名 ひとりでがんばってしまう あなたのたのめの子育ての本 「ダルク女性ハウス」から学ぶこと・気づくこと	

1. 著者名 熊谷 晋一郎、荘保 共子、山森 亮、湯浅 誠、渡辺ゆりか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ジャパンマシニスト社	5. 総ページ数 192
3. 書名 みんなの貧困問題 つながりのなかで子育てをするために	

1. 著者名 雨宮 処凜・神戸 金史・熊谷 晋一郎・岩永 直子・杉田 俊介・森川 すいめい・向谷地 生良	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 この国の不寛容の果てに（「生産性」よりも「必要性」を胸を張って語ろう」（熊谷晋一郎・雨宮処凜））(45-83)	

1. 著者名 熊谷 晋一郎、綾屋 紗月、上岡 陽江、松崎 丈	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 当事者研究をはじめよう	

1. 著者名 染谷昌義・野中哲士・細田直哉・佐々木正人	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 232
3. 書名 身体とアフォーダンス: ギブソン『生態学的知覚システム』から読み解く	

1. 著者名 熊谷晋一郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善プラネット	5. 総ページ数 363
3. 書名 当事者研究のやり方マニュアル: 自閉スペクトラム症に対する当事者研究の方法および効果に関する探索的臨床実験	

1. 著者名 熊谷晋一郎、秋元恵一郎、綾屋紗月、榎原節子、上岡陽江、倉田めば、白井誠一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 『臨床心理学』増刊第10号 当事者研究と専門知	

1. 著者名 日本発達障害連盟（熊谷晋一郎）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 発達障害白書2019年版	

1. 著者名 熊谷晋一郎、嶺重慎、広瀬浩二郎、村田淳、磯部洋明、岩隈美穂、江川達郎、ライラ・カセ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 278
3. 書名 知のスイッチ：「障害」からはじまるリベラルアーツ	

1. 著者名 野尻英一、高瀬堅吉、松本卓也、高森明、佐藤愛、松本敏治、菅原和孝、竹中均、三浦仁士、相川翼、内藤由佳、高橋一行、持留浩二、那須政玄、大隅典子、生田孝、小嶋秀樹、加藤浩平、國分功一郎、熊谷晋一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 <自閉症学>のすすめ	

1. 著者名 岡田美智男 他（「モビリティと人の未来編集部編」）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 240
3. 書名 モビリティと人の未来：自動運転は人を幸せにするか	

1. 著者名 社会思想史学会編（直江清隆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 888
3. 書名 社会思想史事典	

1. 著者名 野田 研一、山本 洋平、森田 系太、河野 哲也	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 352
3. 書名 環境人文学 1 文化のなかの自然	

1. 著者名 Saeed Naji, Rsnani Hashim, and Kono, Tetsuya	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 256
3. 書名 History, Theory and Practice of Philosophy for Children: International Perspectives	

1. 著者名 田中 さをり、河野 哲也	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 204
3. 書名 哲学者に会いにゆこう2	

1. 著者名 人工知能学会、河野 哲也	4. 発行年 2017年
2. 出版社 共立出版	5. 総ページ数 1600
3. 書名 人工知能学大事典	

1. 著者名 牧野 英二、河野 哲也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 422
3. 書名 新・カント読本	

1. 著者名 信原 幸弘、染谷 昌義	4. 発行年 2017年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 320
3. 書名 心の哲学	

1. 著者名 田中 彰吾	4. 発行年 2017年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 生きられた 私 をもともとて	

1. 著者名 熊谷 晋一郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 200
3. 書名 臨床心理学増刊第9号 みんなの当事者研究	

1. 著者名 岡田 美智男	4. 発行年 2017年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 264
3. 書名 弱いロボット の思考 わたし・身体・コミュニケーション	

1. 著者名 川上 浩司、平岡 敏洋、小北 麻記子、半田 久志、谷口 忠大、塩瀬 隆之、岡田 美智男、泉 朋子、仲谷 善雄、西本 一志、須藤 秀紹、白川 智弘	4. 発行年 2017年
2. 出版社 近代科学社	5. 総ページ数 224
3. 書名 不利益	

〔出願〕 計1件

産業財産権の名称 ロボット	発明者 岡田美智男、長谷川 孔明	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、2018-088527	出願年 2018年	国内・外国の別 国内

〔取得〕 計0件

〔その他〕

EcoEx 基盤研究 A 「生態学的現象学による個別事例学の哲学的基礎付けとアーカイブの構築」  
<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/nominalist/>  
 河野哲也の哲学・倫理学研究室  
<https://www2.rikkyo.ac.jp/web/tetsuyakono/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	染谷 昌義  (Someya Masayoshi)  (60422367)	高千穂大学・人間科学部・教授    (32637)	
研究分担者	三嶋 博之  (Mishima Hiroyuki)  (90288051)	早稲田大学・人間科学学術院・教授    (32689)	
研究分担者	柳澤 田実  (Yanagisawa Tami)  (20407620)	関西学院大学・神学部・准教授    (34504)	
研究分担者	田中 彰吾  (Tanaka Shogo)  (40408018)	東海大学・スチューデントアチーブメントセンター・教授    (32644)	
研究分担者	長滝 祥司  (Nagataki Shoji)  (40288436)	中京大学・国際学部・教授    (33908)	



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	熊谷 晋一郎 (Kumagaya Shinichiro) (00574659)	東京大学・先端科学技術研究センター・准教授  (12601)	
研究分担者	岡田 美智男 (Okada Michio) (50374096)	豊橋技術科学大学・工学(系)研究科(研究院)・教授  (13904)	
研究分担者	直江 清隆 (Naoe Kiyotaka) (30312169)	東北大学・文学研究科・教授  (11301)	
研究分担者	森 直久 (Mori Naohisa) (30305883)	札幌学院大学・心理学部・教授  (30103)	
研究分担者	佐古 仁志 (Sako Satoshi) (80713172)	東京交通短期大学・運輸科・講師  (42643)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	國領 佳樹 (Kokuryo Yoshiki)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 The 54th Annual Philosophy Colloquium, Cincinnati Arts and Sciences	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 ワークショップ“Radial Embodied Cognition, East and West”	開催年 2019年～2019年

国際研究集会 ワークショップ「臨床神経学と現象学」ジョナサン・コール・柿木隆介・河野哲也・森直久	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------